

文章表現力を育てるための学習指導

— 表現と理解の関連を図って —

足利市立南小学校

1. 研究主題について

本校では開校以来「響く心、湧く力」を基本理念とし、人間性豊かな児童の育成に努めてきた。また、認め励ます教育の実践に心がけ、主体的な人間づくりに励んできた。

子供たちの作文ぎらいや若い世代の文章力の弱さが指摘されている今日、一人ひとりの子供の確かな表現力、とりわけ文章表現力を育成することは国語科教育に課せられた課題である。このことは学習指導要領でも、その重要性が強調され、国語科で養う究極の能力は表現力であると受けとめることができる。

文章表現力を育てることは、ことばによる理解力、表現力を養い、ことばによる思考力を育成することにつながるものである。

しかしながら、本校児童の実態調査、検査の結果から分析してみると、次のようになる。

- 取材選材力の不足
- 語い力の不足
- 文章構成力に劣る
- 読書量の不足
- 図工科、音楽科に比べ国語科の表現力の不足が目立つ。

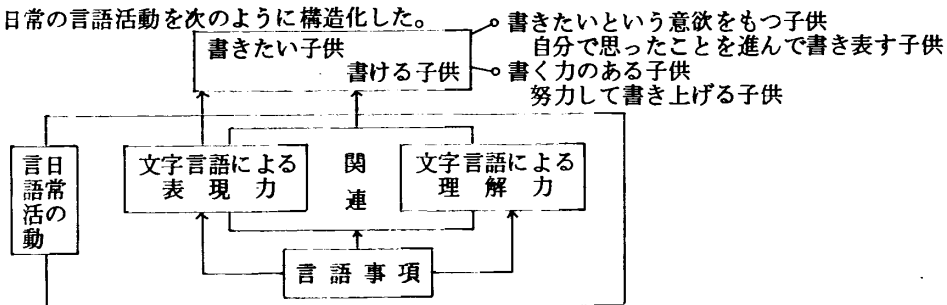
このような実態をもつ本校児童の文章表現力を育てるため、よりよい指導を旨とし指導の改善が必要である。

文章表現力の育成については、実際に文章を書く活動を多く経験させることが必要であり、表現の領域だけの指導では不十分であって、表現力と理解力の関連指導を行うことにより一層確かな表現力が身につくと考えられるのである。そのことを研究、実践することにより書きたいという意欲をもつ子供、書く力のある子供の育成が図られるとの考えから研究主題を設定した。

2 研究の構想

(1) めざす子供像と子供像にせまる構想

文章表現力を高める指導でめざす子供像と、それにせまるための、言語事項、関連指導、日常の言語活動を次のように構造化した。



(2) 研究の仮説

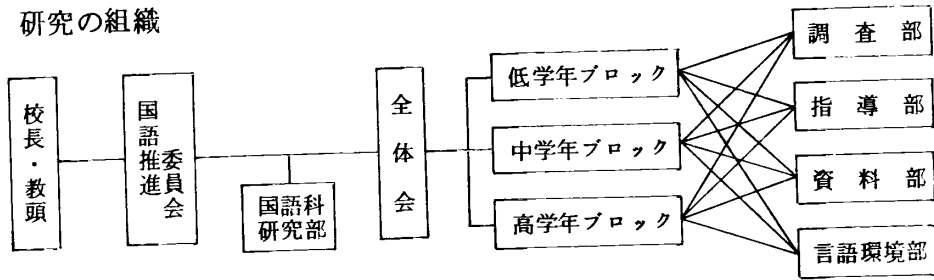
- ① 理解したことを書くことにより表現力が伸びる。
- ② 作文活動の中に読む活動を取り入れることにより豊かな表現力が育つ。
- ③ 発達段階に即した作文の表現過程を明確にし、指導することにより表現力が伸びる。
- ④ 言語事項の系統化をはかることにより表現力が高まる。
- ⑤ 日常の言語活動を積み重ねることにより表現力が高まる。

3. 研究の経過

(1) 研究にのぞむ基本的態度

- ① 「認め励ます」を基本にすえ、ひとりひとりの意欲を高めるよう指導にあたる。
- ② 国語科学習のあり方を研究する機会として積極的に取り組む。
- ③ 授業研究を軸にした研究をすすめる。

(2) 研究の組織



(3) 研究の経過

本校は昭和56年度よりこのテーマに取り組み、3年目をむかえたが、3年間の研究の概要は次のようである。

—第一年次（昭和56年度）—

- 学習指導要領の研究
- 児童の実態把握
- 学力テストの実施・分析
- 研究主題の設定
- 授業研究を中心とした指導
 - ・ 関連A型
 - ・ 関連B型
 - ・ 関連C型

—第二年次（昭和57年度）—

- 視写力・作文力の実態調査
- 「言語事項の指導事項」の教材への位置づけ
- テーマに基づく指導法の研究
 - ・ 関連A型
 - ・ 関連B型
- 日常の言語活動の実施（朝学習）
 - ・ 視写実施計画と実践
 - ・ 短作文実施計画と実践
- 小教研国語科学習指導法研究会（11月9日）

—第三次（昭和58年度）—

- テーマに基づく指導法の研究
 - ・ 関連C型
 - ・ 作文指導
- 日常の言語活動の実践
- 教材研究の演習（説明文教材）

4. 研究の実践

(1) 関連指導の考え方

関連指導は、現在多様な方法で実践されているようである。表現と理解の相互媒介作用を生かすためにどこに焦点をあてて指導すればよいか、本校では、そのよりどころを学習指導要領に求め、関連の系統を明らかにし、そして、指導にあたっては指導の類型を設定し、指導意図を明確にし、指導にあたるよう心がけた。

① 視写・聴写の系列

視写・聴写は表現力の基礎を培う有効な手段である。

A 表現	1年オ	正しく視写したり聴写したりすること。
	2年オ	"
	3年キ	"

視写は理解を深める有力な手段である。

4年ク 表現の優れている文を視写したり、自分の書く文章にも優れた表現の仕方を取り入れたりすること。

5年ク 表現の優れている文を視写することによって、理解及び鑑賞を深めるとともに、優れた点を自分の表現にも生かすこと。

学習として

- 理解学習の過程で理解の深化をはかる指導を行う。
- 基礎能力の訓練としての取り立て指導を行う。

② 聴写・読解による取材の系列

表現の素材を理解した文・文章から得る。

3年ク	聞いたり読んだりした内容から	素材を見付け出して書こうとすること。
4年ク	"	素材を選んで書くこと。
5年ク	"	素材を選んだり、文章の書き表し方を参考にしたりして文章を書くこと。
6年ク		文章の話の内容・事柄などを要約して書いたり、敷衍して書いたりする。

理解から → 表現へ

指導書の解説から見ると……

3年 「理解」の学習で聞いたり読んだりした内容から自分なりに感じたこと、考えたこと、気付いたことなどを文章で表現することに発展させることをねらいとしている。
(指導書 P4)

4年 児童は、日常の生活や学習において、聞く、読む活動を通して様々な情報に接している。それらの中から必要に応じて文章に書く素材を選択できるようにするものである。
(指導書 P62)

6年 要点を短くまとめたり、書き加えて発展させたりして書くことができるようにする。
(指導書 P89)

学習として

- 理解学習の過程で理解の深化をはかる指導
(書きぬく、書きまとめる、書きひろげる、書き加える、感想を書くなど)
- 理解と表現との学習を一つづきの単元として学習する。

③ 文章構成の応用の系列

	理解を深める ←	文章技能	→ 表現に役立てる
3年ケ	内容を理解するため	内容の整理	自分の表現に役立てるため
4年ケ	内容を正しく理解するため	段落ごとの要約、段落相互、段落と文章全体	自分の表現の仕方に役立てるため
4年コ	内容を理解するため	中心的事柄とその他の事柄	自分が文章を書くときに役立てるため
5年ケ	内容を的確に理解するため	文章全体の組立て	自分の表現の仕方に役立てるため
6年ケ	書き手の意図を知るため	簡潔な叙述、詳細な叙述	文章を書くとき役立てる

④ 優れた表現の応用の系列

- | | | |
|-----|-------------------------|------------------|
| 3年コ | 表現の優れている箇所に気付き | 自分が表現するときにも応用する。 |
| 4年ク | 表現の優れている文章を視写し | 自分が書く文章にも取り入れる。 |
| 5年ク | 表現の優れている文章を視写して理解、鑑賞を深め | 自分の表現にも生かす。 |
| 6年ケ | 書き手が工夫している表現の仕方を考え | 自分が文章を書くときに役立てる。 |

理解 → 表現

- 学習として
- 理解と表現との学習を一つづきの単元として学習する。
 - 表現学習を進める中で、必要に応じて理解行為を行う。

(2) 言語事項の位置づけ

言語事項の指導は、原則として、「表現」「理解」の学習を通しておこなうわけであるから、毎時間の国語の指導が言語の教育にふさわしいものであれば、当然言語事項の指導も充実するはずである。そこで各学年の「言語事項配当表」を作成した。その表をもとに、言語事項をしっかりおさえて指導するため、単元の指導計画に位置づけた。

例 1年 ようすを思いうかべて (たぬきの糸車)
指導計画 11時間

学習内容	時	言語事項	表現	理解
・全文を読み通し印象に残ったところを話し合う	1	・新出漢字を読むことができる。 ・糸車	・おもしろいな、好きだと思ったところが発表できる。	・おもしろいと思ったところに印をつけながら読むことができる。
・印象に残っている場面を絵にかく。	1		・好きな場面を絵にかくことができる。	・かきあがった絵を場面ごとにまとめることができる。
・物語の粗筋をとらえる。	1		・絵を見ながら粗筋を話すことができる。	・場面の順序に従って絵を並べることができる。
・第一の場面を読み取る。	1	・山おくの一けんや ・ふうふ おかみさん ・いたずら→わな	・山おくの一けんやをみているたぬきの気持ちを本に書きこむ	・たぬきときこりの夫婦の関係をとりえることができる。
・第二の場面を読み取る。	2	・つむぐ ・やぶれしょうじ ・くりくりした ・くるりくるりと ・ふと ・おもわず ・ふきだしそうに ・まいばん ・こわごわ	・たぬきのかわいらしさを視写し、動作化することができる。 ・たぬきとおかみさんの気持ちを吹き出しに書くことができる	・糸車にひかれるたぬきの様子と、たぬきをかかわく思うおかみさんの気持ちを読み取ることができる
・第三、四の場面を読み取る。	1	・ほこりだらけ ・いたの間、土間 ・いたど ・ちらりと	・たぬきが糸車を回す様子を視写することができる。	・季節の変化と、それに伴って起こった出来事について読み取ることができる。
	1	・手つき ・たばねて ・つみかさねる	・糸車をまわしているたぬきの気持ちとおどろいて見ているおかみさんの気持ちを吹き出しに書くことができる。	・たぬきの行動を通して、冬の間夢中になって糸車を回したたぬきの姿を読み取ることができる。
・第五の場面を読み取る。	1 (本時)	・さも～というように ・ぴょこん ・ぴょんぴょこ	・たぬきの様子に線を引き、たぬきとおかみさんの気持ちを吹き出しに書くことができる。	・帰っていくたぬきと見送るおかみさんの気持ちを読み取ることができる。
・他の民話を聞く	1		・感想を発表することができる。	・どんなお話か考えながら聞くことができる。
・言葉の学習をする。	1	・新出漢字を筆順正しく書いたり短文作りをすることができる。		

(3) 表現と理解の関連を図った指導

ア 関連A型（読み深めるために書く活動を取り入れる指導）

理解を深めるために読む過程に書く活動を取り入れる指導を本校では、関連A型とよんでいる。

この指導は、読む過程に表現活動を取り入れることにより、理解を深めるとともに文章表現力の向上も図るようにする。読みの過程に、場面と機会を得て、そこに書く活動を導入するものであるから、この指導では、教材文のどこに、どのような表現活動を取り入れるのが効果的であるかをしっかりおさえて指導することが大切である。

・関連させて指導する学年別内容

読む過程に書く活動を取り入れて指導する場合、子供達の発達段階に合わせて書く活動を取り入れることにより読みが深まると思える。また、文章表現力の向上も図ることが期待できると考えられる。

① 書き写す（視写に関する書く活動）

- | | | |
|----|---|--------------------------|
| 4年 | } | ・ 特に心をうたれた場面や好きな場面を書き写す。 |
| 5年 | | ・ 表現の優れたところを書き写す。 |
| 6年 | | ・ 基本文型を書き写す。 |

② 書き抜く（抜粋に関する書く活動）

- | | | |
|----|--|---------------------------------------|
| 1年 | ・ 大切な語句、おもしろいと思ったところ、会話などを書く。 | |
| 2年 | ・ 大切な語句、人物の性格や場面の様子が表れているところを書きぬく。
会話などを書きぬく。 | |
| 3年 | ・ 人物の気持ちや場面の様子が表れているところを書きぬく。要点を書きぬく。重要語句を書きぬく。 | |
| 4年 | } | ・ 重要語句や中心段落、情景・心情の推移、会話、感動部分や要点を書きぬく。 |
| 5年 | | |
| 6年 | | |
- ・ 視写としてのねらいをもたせながら書きぬく。

③ 書きまとめる（要約に関する書く活動）

- | | | |
|----|----------------------|-----------------|
| 3年 | ・ 文章のあらましや要点を書きまとめる。 | |
| 4年 | ・ 文章を段落ごとに要約して書く。 | |
| 5年 | } | ・ 文章の要点を要約して書く。 |
| 6年 | | |

④ 書きひろげる（詳述に関する書く活動）

- | | | |
|----|---------------------------------|-------------------------|
| 1年 | ・ 気持ちや会話などを書く。（吹き出し利用など） | |
| 2年 | ・ 人物の性格や場面の様子などをとらえて、気持ちや会話を書く。 | |
| 3年 | } | ・ 場面の情景、人物の気持ち、会話などを書く。 |
| 4年 | | |
| 5年 | } | ・ 情景、心情、行動、会話などを書く。 |
| 6年 | | |

⑤ 書き加える（補充に関する書く活動）

- 1年 }
2年 } ・ お話の続きを書き加える。
- 3年 }
4年 } ・ お話の続きを書き加える。
・ 書き足りないところを想像し、文や文章をつけ加えて書く。
- 5年 }
6年 } ・ お話の続きを書き加える。
・ 書き足りないところを想像したり、考えたりして文や文章をつけ加えて書く。

⑥ 書きかえる（改作）

- 4年 }
5年 } ・ 場面の情景を想像し脚本を作る。
6年 }

⑦ 感じたことや考えを書く（感想、意見）

- 1年 }
2年 } ・ 登場人物にあてて手紙を書く。
- 3年 }
4年 } ・ 感動したこと、考えたこと、思ったことなどについて、感想や手紙を書く。
- 5年 }
6年 } ・ 主人公の行動、心情について感想を書く。
・ 主題、要旨について感想や意見を書く。

イ 関連B型（読みとったことを作文に転移させる指導）

読みとったことを作文に転移させる指導を本校では関連B型とよんでいる。

この指導過程は、次のようになる。

- ① 〔読解過程〕 ・ 読み深めるために書く活動をとり入れる。
・ 書く視点から文章を読む。
- ② 〔移行過程〕 ・ 作文するために読解した結果を整理する。
・ 作文するために内容を耕す。
- ③ 〔作文過程〕 ・ 読解過程で学習した結果を生かす。
・ 作文活動を展開する。

本校では、転移させるものとして次の表現能力を考えている。

- ・ 題材に対する見方、考え方
- ・ 文章構成の仕方
- ・ 叙述の仕方

関連指導で、どのような表現能力を身につけさせるかについては、各学年ごとの具体的指導事項を設定することが大切である。

そのため本校としての「文章構成の能力」「文章叙述に関する能力」を次のようにおさえた。



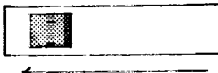

学年	自分の表現に応用する文章構成の主な内容	自分の表現に応用する叙述の主な内容
一 年	<ul style="list-style-type: none"> ◦ひとつのことがわかるように書く。 (書く材料を順序にしたがって並べる) 	<ul style="list-style-type: none"> ◦順序をたどって書く。 ◦主語、述語を入れて書く。 ◦会話をに入れて簡単な文を書く。
二 年	<ul style="list-style-type: none"> ◦時間的経過などの順序をたどり、はじめ、なか、おわりを決めて書く。 (書きたいと思う事柄の順序を整理して書く) ◦目的に応じ、観察し、書く事柄を整理し表現に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦順序よく書く。 ◦主語、述語の関係や、修飾、被修飾の関係をおさえて書く。
三 年	<ul style="list-style-type: none"> ◦事柄ごとにまとめて簡単な構成の文章を書く。 (・時間的順序で組み立てたり、場面ごとに組み立てたりする。 ・はじめ、なか、結びの組み立てをする。) ◦目的に応じ、観察、調査、実験によって情報を収集し、論理の展開に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦会話を入れたり、擬声語、擬態語を入れて書く。 ◦文章の中心を詳しく書く。 ◦書き出しに変化をもたせ、結びも工夫する。
四 年	<ul style="list-style-type: none"> ◦中心点が明確で読み手にわかる構成を工夫する。 (・時間的順序で組み立てたり、場面ごとに組み立てたりする。 ・はじめ、なか、結びなど組み立て方を工夫する。 ・小見出しをつけて文章一つ一つをまとまりよく構成する。) ◦目的に応じ、観察、調査、実験や参考図書などによって情報を収集し、論理の展開に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦対象の様子、特徴、変化の様子を描写する。 ◦会話表現によって雰囲気や気持ちが表れるように書く。 ◦「～みたい」「～のような」というたとえ方をする。

<p>五 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 主題や要旨を明確にする構成を工夫 (・ 時間的順序, 場面, 論理などによって展開する。 ・ 段落の役割や軽重を考えて書く。 ・ 事実と意見との配列を主題に合わせて考える。) ◦ 目的に応じ, 観察, 調査, 実験や参考図書などによって情報を収集し, 論理の展開に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 対象に迫る描写を工夫する。 ◦ 倒置法, 省略法, 慣用句, 比喩的表現を用いる。 ◦ 書き出しを工夫する。 (問題提起, 意見, 感想, 仮定的設定情景描写など) ◦ 目的に応じて箇条書きなどの書式を工夫する。
<p>六 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 目的に応じて文章構成を効果的にする。 (・ 引用と説明の組み合わせ, 体験と意見の組み合わせなど。 ・ 目的に応じた書き手の意図が表れるように工夫する。) ◦ 目的に応じ辞典, 参考図書など, 情報収集の経路を拡大, 論理の展開に役立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 目的に応じて精叙, 略叙を使いわけ ◦ 描写と説明を効果的に組み合わせて書く。 ◦ 目的や必要に応じて文体を工夫する。 ◦ 書き出しを工夫する。 (引用文の工夫など)

ウ 関連C型 (作文の中に読みを導入する指導)

作文学習の過程で表現をよりよくするために, 優れた表現をもつ文章を理解して, その表現方法を自分の作文に摂取するものである。

これには次のような三つの場合が考えられる。

- ①  はじめに理解し, その理解に基づいて表現する。
- ②  はじめに表現を構想し, 次に理解を取り入れて表現する。
- ③  はじめに表現し, 次に理解を導入して表現を推敲する。
- 

(4) 作文指導

学年の発達系統をおさえて指導にあたった。

学年の発達系統

一 年	二 年	三 年	四 年	五 年	六 年
基礎的態度	基礎的 作文技能	初 歩 的 作文技能	初歩的作文 技能の発展	作文技能の 充実	発展・応用 目的
基礎的態度・技能		初 歩 的 技 能		発 展 的 技 能	
書くことに興味をもち、喜んで書くような意欲を育てることが中心となる。 ことばの使い方やセンテンスの書き方も指導して基本的な技能を確実に養成する。		低学年で養成した技能を基に基本的技能の確実な習得をめざす。 だらだらした文章からひきしまった文章に練り直す指導を施す。		低・中学年までに習得された基礎的な態度や技能を十分に活用して、目的に作文を書く。 応用発展の技能を養成する。	
だいたい 順 序		要 点 段 落		主 題 ・ 要 旨 目 的 ・ 形 態	

(5) 表現力を高めるための日常活動（朝学習）

文章表現力を高めるために、国語科において文字による表現・文字言語による理解の関連を図り指導することはいうまでもなく、日常の学校生活に言語活動の場を設定したり、教室の言語環境を整備充実したりして指導することが必要である。

(1) 朝学習の充実活用

各学年とも、朝学習を週予定（8:20～8:30 火～土）に位置づけ、その充実活用を図った。

◎ 朝学習の充実活用（2年の例）

(2) 言語環境の整備

ア 教室環境の整備

イ 校内環境の整備

(3) 学習訓練

ア 話し方の基本型

イ ハンドサイン・声のものさしの活用

曜	火	水	木	金	土
朝	視	計	漢	観	短
学				察	作
習	写	算	字	日	文
				記	

<授業実践例>

関連A型の指導例（1年）

1. 単元名 よみましよう（おおきなかぶ）
2. 単元の目標
 - 1) 繰り返しのおもしろさや人物の動きのおもしろさをさし絵と合わせて想像しながら、はっきりした発音で音読することができる。
 - 2) 場面ごとに変化する言葉の使い方に気を付けながら、視写ができる。
 - 3) かぎの使い方や敬体の文章について理解することができる。
3. 本時の目標
ねずみが加わって、とうとうかぶが抜けた時の気持ちを動作化を通して読みとることができる。また、吹き出しにその時の言葉を書くことによって読みをより深めることができる。
4. 指導過程

学 習 活 動	関 連 指 導 と し て の 活 動
<ol style="list-style-type: none">1. めあてをつかむ。2. 本時の学習部分を読む。3. 7の場面を動作化する。④ かぶがぬけた時の気持ちを吹き出しに書く。5. 本時のまとめをする。	吹き出しに登場人物になったつもりでかぶが抜けたときの気持ちを書く。（誰か一人でもよい）

5. 考 察

この単元では読みを深めるために場面の視写や吹き出しの書き込み、場面を想像しながらの音読などを取り入れた。本時は動作化をすることによってかぶが抜けたときの様子をイメージ化させ、吹き出しに書くことにより登場人物の気持ちをとらえさせた。

- 特に低学年の場合は動作化によってそのものになりきることができ、理解に役立つ。この場合、動作化する人数、時間のとり方、クラスのだれをどう生かすかなど十分配慮する必要がある。
- 気持ちを想像して書く場合、吹き出しを使うと、書くことへの抵抗が少なくなり、かなり気持ちを表現することができるので、低学年の指導には大いに効果がある。
- どの程度書かせたいのか指導者としてのねらいをしっかりと持っていることが大切である。
- 登場人物のだれの気持ちを書かせるか焦点化も必要である。書く時に迷ってしまう子もいた。
- 吹き出しに書いたことを発表させる際に工夫するとよい。
- 作業用紙の吹き出しの部分に線を入れたが、ない方がよかったのではないかと。

関連B型の指導例（4年）

1. 単元名 文章の組み立てに気を付けて（体を守る皮ふ）

2. 単元の目標

- (1) 自分で説明文を書くという意識づけをしながら、文章の組み立てに気を付けて、各段落の要点や段落相互の関係をつかみ、書かれている内容を正確に読みとることができる。
- (2) 読みとった教材文の組み立てを生かし、文章の組み立てに気を付けて、中心がはっきりした説明文を書くことができる。
- (3) 説明的文章における段落相互の関係や文章構成の仕方を理解することができる。
- (4) 人体の仕組みなどについて深く考え、さらにいろいろな読み物を読んで、知識を深めることができる。

3. 単元展開の立場

(1) 教材について

この時期の子供達は、自然のしくみ・動植物の生体や人体の構造などに対する興味や関心が深く、知識欲も旺盛になっている。しかも、ものの見方考え方なども次第に論理的になっている。それゆえ、人間の皮ふを素材とした文章は、児童の発達段階に適した教材と思われる。興味深く読み進ませながら、説明的文章の基本的な構成と段落相互の関係をつかんでいく力を養っていきたい。

また、この教材の文章構成は、初めに話題を提起し、次に具体的説明をして、最後に、初め話題にしたことを確認するというわかりやすい組み立てになっている。初めに各段落ごとの要点を読みとり、段落相互の関係をつかまさせたい。そして、ここでの読解力をもとに、中心のはっきりした説明文を書かせたい。その際、教材文と同じように「書きだし・説明・結び」にわけた文章構成の構想メモを作らせることにより、段落や段落相互の關係に気を付けて書かせたい。

なお、自分で書く説明文は、教材文の構成や文章が生かせるよう、題材は「人間の体の仕組みやはたらき」に限定する。また、あらかじめ題は決めさせ、書く材料については休み時間や家庭学習で調べさせておく。

※ 転移を期待する能力

○文章を構成する力

組み立て（書きだし・説明・結び）に気を付けて書く。

4. 本時の目標

構想メモをもとに、段落相互の關係に気を付けながら説明文を書くことができる。

5. 指導過程

学 習 活 動	関 連 指 導 と し て の 活 動
1 本時のめあてをつかむ 体の仕組みやはたらきについて説明文を書こう。	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の教材文「体を守る皮ふ」の文章構成の確認をする。
2 自分の構想メモについて発表する。 3 構想メモをみながら説明文を書く。 4 次時の学習を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 構想メモ（作業用紙） <div data-bbox="508 450 1088 731" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;">☆文章の組み立て 四ノ（ ）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 段落相互の関係を考えながら、適当な接続語や指示語をおとさないように書く。 書く能力の低いと思われる児童は、説明の段落が少ない構成にする。

6. 考 察

- まず教材文を書き手の立場で読み、接続語を正しくおさえ、文章構成をつかませた。次に読みで得た文章構成の形式を自分の表現に役立てるため教材文と同じ構成で構想メモをつくった。本時ではそれを利用し説明文を書いた。読解学習から作文へ移行する関連指導であり、学習したことを使い、自分で選材したことをもとにしてどの子も意欲的などりくみがなされていた。全員が自分なりの説明文が書けていた。
- 児童の書く説明文の題材は、「人間の体の仕組みやはたらき」に限定したが、児童が選んだ題としては、目のつくり、口、耳、血液、歯などが多かった。いざ百科事典などで調べていくと子供達に適した本も少なく、理解しにくい内容が多々あり、本時にいたるまでの教師の細かい指導が必要である。
- 構想メモを用いたことでまとまりもあり、段落もおさえてある文章が書けた。
- 教師が個人差をとらえ、その子なりの構成をさせて書かせたことはよかった。ただ構想メモから、ふくらんだ内容の文章を書くことはまだ十分できていない。

関連C型の指導例（5年）

1. 単元名 深く見つめて

2. 単元の目標

- (1) 自分のことについて、いろいろな角度から見つめたり、深く掘り下げたりして書く材料を豊富に集め、その中から一つの主題を選んで、構成のはっきりした作文を書くことができる。
- (2) 子供達の作品（文集・足利の子）を読みとり、表現の仕方を自分の作文に役立てることができる。

3. 本時の目標

構成メモを作り、書き出し文を工夫して書くことができる。

4. 指導過程

1. めあてをつかむ
2. 文章の構成メモをつくる
3. 作文を書く
- ④ 書き出しの工夫をする
 - ・他の作品の書き出しを読み自分の書き出し文を工夫する。（教師が用意した書き出し文）
 - ア 自分の行動から
 - イ 会話文から
 - ウ 他人の行動から
 - エ ある時の様子から
 - オ 人と人との関係から
 - カ 心情から
5. 次時の学習を知る

子供の作品（書き出しの部分） （・印の行……書き直したところ）

武井 翔

その日朝おきこみたらお母さんがここにこいていた。カレ
 ンターを見たら母の日だった。そうだった。今日は母の日か
 ぶどうをかかレゼントを買ってあげた。それは母の日のことです。いろいろまよ
 したが、バクを買ってあげた。お母さん、うれしそうに
 ありがとう。
 とにこにこしながら言っていました。

5. 考察

- 本時のねらいが2つあったが学習過程に無理があった。
- 本時は表現するために文章構成をし、次に「理解」をとり入れて表現させる授業であったが、表現をさせてしまったため、不十分であった。推敲の段階で「理解」を導入する方法も考えられる。
- 教科書には作品例はないが、「足利の子」を教材化して使用したのはよい。どの教材を使ったら効果的な指導ができるか、教材の開発が今後必要である。
- 書き出しの指導は、児童の実態に偏りがあるため、観点を与えたのであるが、子供の作文の実態を把握することが大切である。
- 自分を深く見つめるという指導を十分する必要がある。「内気」とか「やさしい」とかの概念がはっきりしない子がいた。
- 効果的な書き出しはしたらよいか、子供は自分の作品を見つめ、作品の加除修正もなされていた。

読書感想文を書く指導例 (4年)

1. 単元名 感想文を書こう

2. 単元の目標

(1) 読書を通して感じたことや思ったことをまとめて、読書感想文に書くことができる。

(2) 文章構成を考えて、中心のはっきりした文章を書くことができる。

3. 本時の目標

「カード」や「しおり」を使って感想文を書くことができる。

4. 本時の指導過程

この単元は、読書を通して様々な感想を整理し、構成して書くという技能を習得することと書くことにより個性豊かな考え方や感じ方をねらいとしている。

(1) 作品全体から強く感じたことを簡潔にまとめる「カード」作りをさせる。

(2) 心に打たれたところや忘れられないところなど感想を書き込ませ、はさんでおく「しおり」の作成をさせる。

(3) カードやしおりを利用してアウトライン作らせる。(本時)

(4) 読書感想文にまとめさせる。(本時)

という指導過程をとった。

作品例

作品全体から感じとる感動 (はろみ)	作品全体から感じとる感動 (はろみ)
-----------------------	-----------------------

しおり(4)	ロボがどくえ この二にふんさ ちえのある動物の んだなめこと (橋本)
--------	---

しおり(3)	ロボのなま が五年もの のワシも二十頭以 上殺したところ たたう (橋本)
--------	--

しおり(2)	プランカ 夜だけ のロッジを たところ (増子)
--------	--------------------------------------

しおり(1)	ラン とあうしまり たところ なあ (橋本)
--------	------------------------------------

自分の考えた題名(ほろびたロボ)

「ロボ」を読んで

橋本幸江

カランポールの大王ロボ、わたしはこのロボとすきになれなかつた。なぜなら、カランポールの人たちがこまらせたじらだ。

でも、よく読もと、ロボの愛情が、心にしみて、ロボとすきになつた。とうじに、ロボの味方をして読み続けた。

カランポールの谷をあらしまわるロボ。わたしは、カランポールの住んでいる人は、たい

へんだらうなあと、わけては、カランポールの人たちは、牛やひつじをかって生活しているからである。

そして、ブランカと黄色オオカミで、二百五十匹きのひつじを殺してしまつた。

夜だけで、二百五十匹きも殺して、どうするのかわりたかつた。それに、カランポールの人たちは、ますますこまらしてしまうだろう。

だから、わたしは、よけいロボをきらいになつた。

5. 考察

- 指導するに当たり、教材研究等早くから学年としてチームを組んで指導案をつくり授業実践し、その結果を検討し、改善を加え、また他の組で実施という方法をとってきた。本時は十分資料の検討を加えてなされた授業であり、協力研究の成果があった。
- 今まで書いた児童の感想文から児童の実態をとらえての授業実践であった。
- 書く活動が十分位置づけられていた。「カード」、「しおり」を生かしてアウトライン作りもスムーズにでき、すぐ書く作業に入った。書く活動を十分とったため書かれた作文からみて、カードの内容もふくらませた文が書けていたし、しおりとしおりの接続がうまくなされていた。
- この時期の児童の作文を見ると、あらすじを連ねたものや最後に断片的な感想を書き出した程度のものが多い。また書くことがなく書けない子もいる。カードをつかい自分の感想をとらえさせ、しおりを使って読み手であるとともに書き手であるという構えで読書していたことがよい感想文に結びついたと考えられる。

5. 研究の成果と今後の課題

書きたいという意欲をもつ子供・書く力のある子供の育成を目指し、次の仮設のもとに3年間の実践を積み重ねてきた。つまり表現力が伸びるためには、「理解したことを書く」、「作文活動の中に読む活動を取り入れる」、「発達段階に即した作文の表現過程で明確にする」、「言語事項の系統化」、「日常の言語活動の継続化」等々で、表現と理解の関連を図る指導実践の積み重ねの結果、下記に示すような成果を得ることができた。これは研究仮設に基づく実践研究が間違っていなかったといえる。

ちなみに、研究の成果と思われることを列挙してみよう。

(1) < 児童側 >

- ① 学習に対する考え方や取り組みに前むきの姿勢がみられ、書くことへの抵抗感がなくなってきた。
- ② 書く作業を取り入れることにより、読みの深まりや豊かさがみられるようになった。
- ③ 書くスピードがついてきた。また、記述量も増してきた。
- ④ 構成メモや作業用紙を工夫することにより、文章構成に着目する児童がふえてきた。

(2) < 教師側 >

- ① 教材研究に対する構えと質的な高まりがみられる。特に、教材研究の深まりによって、明確な目標のもとに授業が進められるようになった。
- ② 児童の実態をおさえた授業が展開されるようになった。
- ③ 指導技術の向上では特に次のことが挙げられる。
 - ねらいの達成にせまる発問
 - 指導される内容がきちんと構造化された板書
 - 個々が生かされる指導形態の工夫

上記の成果に対し、今後の課題は次のようなものがあげられる。

- ① 教材開発の必要 — 特に関連指導に適した教材の収集、児童の実態、学習のねらいに合った教材の開発
- ② 書写力、表現力の個人差をふまえた指導や評価
- ③ 理解能力が表現能力の育成に、また、表現能力が理解能力の育成に転移できる指導法
- ④ 言語環境の整備、特に家庭や地域への働きかけ
- ⑤ 指導実践に用いた資料の保存と活用

おわりに

この研究推進にあたって何回も訪問され、ご指導くださった足利市教育委員会の大家晴雄先生に深く感謝申し上げます。

評

今回の小学校学習指導要領の国語科編においては、「表現」の指導を充実させ、文章の表現力を高めることを重要課題としております。このことは、基本方針で強調し、領域構成を「表現」と「理解」に改めたり、授業時数をふやしたりして、言語の教育としての在り方を一層明確にし、その関連を図ることで文章表現力を高めようとする改革であるとも言えます。

南小学校では、この重要性に着目し、文章表現力を高めるために、「表現」と「理解」の関連を図る研究を積極的に取り入れ、実践されたわけであります。特に、この面の文献研究から始められ、「表現」と「理解」の関連の系統を明らかにし、その関連の指導をA、B、Cの三つの型で示して研究授業に取り組みられました。例えば、B型の実践例において、説明的文章の理解の学習に際し、表現に転移できる力ー文章構成力を学ぶ指導を位置づけたことであります。

このように、文章表現力を高めるため、とりわけ指導時間数の多い理解学習との関連を図った研究実践は画期的なことであって、これからの関連指導の取り組みに多くの示唆を与えてくれるものと確信いたします。

今後、表現と理解の指導の独自性を明確にしながら、更に研究実践を深め、本地域の先導的な役割を果たされることを期待しております。